

みんなの「なんなの?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)



信毎こども記者ニュース

発行/連絡先

こども記者クラブ(信濃毎日新聞) 〒380-8546 長野市南県町657
TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp

no.73

漆器のお茶わんやおはし、使っていますか。信毎こども記者クラブは6月20日、塩尻市木曾平沢で取材教室「体感!漆器の街」を開きました。漆器にかざりの絵や模様を入れる「沈金」を体験したり、昔の建物を残す街並みを歩き、職人さんの仕事を見たり。多くの人々が手をかけて作る、漆の世界を探検しました。

軽くて手になじんで、温かい

飯田市5年 菊原心粋記者

漆器のことはぜんぜん知りませんでした。日本の伝とう産業で、大切にしていかなければならないことが分かりました。なぜ木曾で漆器作りが広まったかという、木曾には材料となる良質の木材があるということ、街道があって人がたくさん通ったこと、気候が向いていたということです。

ただ、ウルシの木はあまりなく、松本市内で育てたり、外国のものも使っているそうです。ウルシの木から液を採り出すには、樹齢15年くらいの木を使います。木の皮にきずをつけて採れるだけ採ると、木を切ってしまう。そして、新しい木を植えます。漆はかんたんにたくさんは採れないのです。外国からゆ入れた漆は、主に漆器の下ぬりに使い、国産の上等な漆は仕上げに使います。

職人さんが手間ひまをかけて作るの、とても値段が高いけれど、手に持ってみると軽くて、手になじんで、温かさを感じました。私は大人になったら、また木曾に来て、漆器のお茶わんを買いたいと思いました。



「漆器の街」を探検したよ!



八千も使っていた漆

木曾町4年 柳原日向記者

日本の漆は長い歴史があります。中国から約6000年前に伝わったといわれていましたが、最近の説では、9000年前、日本でせつ着ざいとして使われていたそうです。

そして、なんと八千は、人間よりも漆を先に使っていたそうです。単をくっ付けるのに欠かせないのです。

木曾漆器は、約450年前、中山道とともに発達しました。漆にはいろいろな歴史と用とがあり、日本のほこりです。



漆にはいろいろな使い方が

木祖村4年 杉原倫記者

木曾平沢で漆の体験をしました。漆には、とりょう、せつちゃくざいなどいろいろな使い方があります。絵をかくこともできます。沈金という方法で、漆器にかざりを入れる体験をしました。使った板は、何度も漆をぬったり、といだりしてありました。何度もくりかえしてあり、すごいなあと思いました。

こども記者クラブのメンバーを募集しています。メンバーになると、特製記者バッジと名刺をプレゼント。「こども記者クラブ希望」と書いて、どしどし応募してくださいね。